

# 公益社団法人日本薬剤学会 2018年度事業報告(案)

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

## 公益目的事業1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発, 研究の振興, 調査研究並びに評価により, 薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

### まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり, 上掲の「公益目的事業1」を着実に推進するための事業計画を立案し, 理事会を中心としたガバナンス体制の下, 着実に事業の運用を図った。また, 健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが, 事業ごとに精査を行い, こちらも適正運用の達成に努めた。

### 会長

#### 1 APSTJ 2025 推進事業

- 理事会主導により, 日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討を行った。
- 日本学会会議が大規模研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行った。
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進した。

#### 2 国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準的な医薬分業(完全分業あるいは強制分業)への移行について, 必要な情報を整理しつつ, 実施に向けての戦略を立案し, 関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進した。

### 副会長総務担当理事

#### 1 学会賞等表彰事業

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| 1.1 薬師メダル             | 受賞者なし   |
| 1.2 学会賞               | 受賞者 山下 伸二   |
| 1.3 功績賞               | 受賞者 中上 博秋   |
| 1.4 奨励賞               | 受賞者 勝見 英正, 高橋 有己, 兵頭 健治   |
| 1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞 | Jindřich Kopeček  |
| 1.6 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞     | ---当期設定なし---  |
| 1.7 永井記念国際女性科学者賞      | 受賞者 加藤 くみ子  |
| 1.8 創剤特別賞             | 受賞者なし   |
| 1.9 優秀論文賞             | 受賞者 ---当期設定なし---  |
| 1.10 製剤の達人称号          | 受賞者 西浦 昭雄, 柳井 薫雄, 池田 幸弘,<br>川上 亘作, 加藤 保富, 西本 典広,<br>柳 敏宏, 長谷川 浩司, 伴 和敏,<br>碓井 富佐雄 |
| 1.10 国際フェロー称号         | 受賞者 Jindřich Kopeček  |
| 1.11 「薬と健康の週間」懸賞論文    | 第1席 高瀬 理那<br>第2席 村田 俊介, 鮎井 悠汰   |

#### 2 創剤開発・研究賞表彰事業

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 2.1 旭化成創剤開発技術賞 | 受賞者 原 好男, 深谷 志保, 大野 啓 |
| 2.2 旭化成創剤研究奨励賞 | 受賞者 奥田 知将             |

### 渉外担当理事

#### 1 学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と, 口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として, 年会において学生主催シンポジウム SNPEE 2018 を開催した。

テーマ “「The Passion ～SNPEE が生み出す相互作用に情熱を!～」”

特別講演「WORK SHIFT ～製剤研究を通して変化したこと～」林 祥弘先生(富山大)

2018年5月31日, 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 約60名参加

## 2 広報委員会事業

学会ウェブサイトリニューアルしてより使いやすくすると共に、本学会の活動の広報や、会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図った。また、オンライン化した「薬剤学」誌のウェブサイトからの情報発信を編集委員会と協力しながら行った。

## 3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し、専門の研究者・技術者が協議し、本学会会員に情報発信を行うことを目的に、年会において「医薬品包装シンポジウム」を開催した。

「サステナブル社会の実現に向け医薬品包装が直面している課題～偽薬/流通/アドヒアランス～」

2018年6月1日、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 約80名参加

## 4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について、専門委員が協議して提言を行う他、年会においては以下のとおり薬学教育シンポジウムを開催した。

「次世代の薬剤学教員を求む」

2018年6月1日、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 約100名参加

## 国際連携担当理事

### 1 英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し、講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で実施した。

#### 1.1 第1回英語セミナー

2018年12月20日 名古屋市立大学 54名参加

#### 1.2 第2回英語セミナー

2019年2月6日 神戸学院大学 46名参加

#### 1.3 第3回英語セミナー

2019年3月7日 長崎大学 70名参加

### 2 国際学会等協力事業

#### 2.1 FIP (国際薬学連合)

78<sup>th</sup> FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences (イギリス, グラスゴー, 9月2-6日) に Delegate を派遣したほか, Japan Night を主催した。PSWC2020 におけるシンポジウムプログラムの提案を会員に推奨した。

FIP 連絡会議に, 会長・担当理事代理を派遣し, 他の FIP 会員学会と情報共有を図った。

PSWC2020 について, 協賛学会となることを決定した。

#### 2.2 AFPS (アジア薬科学連合)

AFPS2019 の企画・運営に参画した。

#### 2.3 第2回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ (ソウル, 韓国, 2018年7月10-11日) を共催開催し, 4名の若手研究者を派遣した。

## 機関誌担当理事

### 1 「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文を選考した。「薬剤学」のコラムを整理し、「夢対談」、「偉人伝」などの新企画を開始した。また、原著論文については J-STAGE での Web 公開と同時に、他の記事は Web 公開の半年後から全情報を公開することとし、「薬剤学」の引用率向上に努めてきた。更に、過去の「薬剤学」の原著論文や記事もあわせて Web 化を実施した。

### 2 投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文を審査した。また、論文投稿規定を一部変更し受付ける論文の範囲を広げた。

### 3 学会誌出版事業

#### 3.1 機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した (79巻1号のみ冊子も発行, 他は web 版のみ発行)。

Vol. 78 No. 3 2018年5月1日発行

Vol. 78 No. 4 2018年7月1日発行

Vol. 78 No. 5 2018年9月1日発行

Vol. 78 No. 6 2018年11月1日発行

Vol. 79 No. 1 2019年1月1日発行

Vol. 79 No. 2 2019年3月1日発行  
英文論文についても積極的な投稿促進を図った。

3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

昨年度に引き続き JDDST の購読促進を図った。2018年度は以下の通り発行した。

Vol.44 April, 2018	Vol.45 June, 2018
Vol.46 August, 2018	Vol.47 October, 2018
Vol.48 December, 2018	Vol.49 February, 2019

## 書籍担当理事

### 1 出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行った。

- 1.1 製剤技師認定試験第6回～10回の問題と解説，および傾向と対策をまとめた「製剤技師認定試験の問題と解説（第6回～10回）（案）」（監修：日本薬剤学会 製剤技師認定委員会）の企画出版を計画した。
- 1.2 薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動をベースとしたシリーズ書籍として「前臨床/臨床医薬品開発の展望と戦略」（監修：日本薬剤学会 前臨床開発 FG/経口吸収 FG）（2018.6）および「固体医薬品の物性評価 第2版」（監修：日本薬剤学会 物性 FG）（2018.8）を発刊した。

## 技術担当理事

### 1 製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により，滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営した。今期は以下のとおり開催した。

- 1.1 第23回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会  
「経口製剤の製剤設計と製造法」 25名参加  
2018年6月7-8日 大阪大谷大学ハルカスキャンパス  
7月12-13日 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
- 1.2 第15回製剤技術伝承実習講習会  
「製剤設計の基盤となる多様性広がる化合物の評価戦略」 18名参加  
2018年8月30-31日 星薬科大学
- 1.3 第24回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会  
「非経口製剤の製剤設計と製造法」 17名参加  
2019年1月10-11日，2月14-15日 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

### 2 製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で，日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する。今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため，様々な活動を展開した。今期の開催と認定者は以下のとおり。

- 2.1 第9回製剤技師認定試験 39名受験  
2018年10月20日 慶應義塾大学三田キャンパス／神戸薬科大学
- 2.2 第9回製剤技師認定者（31名，合計認定者数217名）  
今井 祐介，大竹 宏忠，大津木 護，大場 義人，岡本 憲明，小川 哲弥，長内 絵里奈，國澤 啓司，久保 達彦，神山 仁志，庄司 哲朗，杉浦 健太，杉本 匡史，竹内 一彦，千々石 英里，寺澤 希実，時任 正和，中西 友紀，花田 智美，東村 由佳，牧田 圭祐，真島 聡芸，向井 大輔，室井 涼子，森崎 一貴，八木澤 祥史，山内 康平，山崎 翔平，山本 浩之，吉井 宏子，若井 有未

## 製剤・創剤セミナー担当理事

### 1 製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い，医療・薬剤学に関し，サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合符形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下のとおり開催した。

- 1.1 第43回製剤・創剤セミナー  
「医の心と最新技術のハーモナイゼーションー患者のための製剤・創剤ー」  
（2018年8月23-24日，湘南国際村センター）：126名参加

## 公開市民講演会事業担当理事

### 1 公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画し、今期は以下のとおり開催した。

「薬剤師はあなたの健康管理のパートナー」

(2018年9月25日、慶應義塾大学薬学部) : 75名参加

## FG担当理事

### 1 FG統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ (FG) を統括する委員会として、事業・予算の管理を行い、各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当した。

日本薬剤学会の現状及び FG 規約を各 FG に周知する目的で、各 FG リーダーを含めた FG 統括委員会を年会期間中に開催した。事業・予算の管理のための FG 統括委員会はメール会議で対応した。

#### ・FG統括委員会

2018年5月30日、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 20名参加

2018年度より「超分子薬剤学 FG」が活動を開始した。

以下、各 FG の活動報告概要を示す。

#### - 【経口吸収 FG】

経口吸収に関わる生体膜機能、吸収機構、体内動態、製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し、新たな経口吸収研究を開拓するため、以下の企画を実行した。本年度は、2件の招待講演（「多機能性エンベロップ型ナノ構造体の創製と核酸ナノ医療への展開」（原島秀吉先生）、「BCS バイオウェーバーと生物学的同等性評価の動向について」（伊豆津健一先生）を含む活発な討論がなされた。

##### ・第8回経口吸収フォーカスグループ合宿討論会

(2018年10月29-30日 ホテルノルド小樽 (小樽市)) : 参加者22名

・フォーカスグループ (FG) の活動をベースとした書籍として「前臨床/臨床医薬品開発の展望と戦略」（監修：日本薬剤学会 前臨床開発 FG/経口吸収 FG）を発刊した (2018.6)。

・日本薬学会 第139年会において、経口吸収 FG によるシンポジウム S39「医薬品開発における経口吸収研究の最前線」を企画・運営した。

(2019年3月22日、幕張メッセ (千葉)) : 参加者約150名

#### - 【経皮投与製剤 FG】

医薬品、化粧品の処方設計、医療現場での評価など製剤のユーザビリティについて、多方面の参加者の討論を目的としたシンポジウムを開催した。

##### ・第10回経皮投与製剤 FG シンポジウム

(2018年11月19日 城西大学紀尾井町キャンパス) : 参加者144名

#### - 【経肺経鼻投与製剤 FG】

経肺経鼻投与製剤に関わる知見や技術情報を共有するとともに、当該領域の研究に従事する研究者間でデータについて詳細に議論する場として研究会を実施した。

##### ・日本薬剤学会経肺経鼻投与製剤 FG 研究会

(2019年1月11日 静岡県立大学 草薙キャンパス) : 参加者81名

#### - 【核酸・遺伝子医薬 FG】

核酸医薬および遺伝子医薬に対するデリバリー製剤に関して以下の行事を開催した。

・日本薬剤学会第33年会 (静岡) FG ラウンドテーブル「核酸医薬の実用化を加速するデリバリー戦略とレギュラトリーサイエンスについて考える」(DDS 製剤臨床応用 FG との共催)

(2018年5月31日静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ) : 参加者約200名

また、前年度の2018年3月に金沢で開催された日本薬学会第138年会において、DDS 製剤臨床応用 FG と合同で企画、開催したシンポジウム「遺伝子・核酸医薬品およびその DDS 開発研究の課題を産官学で協力して考える」(2018年3月27日 ANA クラウンプラザホテル金沢) でご講演いただいた先生方に、ご講演内容を中心にまとめていただく形でご執筆いただき、日本 DDS 学会誌 Drug delivery system の特集号「核酸・遺伝子医薬およびその DDS 開発研究の課題」としてまとめた (2019年3月発行)。

一方、微粒子製剤の物性測定方法の「標準化」に関して、微粒子製剤の粒子径測定に関する評価結果を整理し、日本薬剤学会第33年会 (静岡) で発表するとともに、日本核酸医薬



学会誌に論文を寄稿した。また、今後の微粒子測定についても計画を進めた。

- ・日本薬剤学会第 33 年会（静岡）ポスター発表「微粒子製剤の粒子径測定方法の標準化に向けた標準製剤の多施設合同測定」 麓 伸太郎，西川元也，秋田英万，浅井知浩，井上貴雄，上田恵津子，奥 直人，櫻井文教，高島由季，永原俊治，根岸洋一（日本薬剤学会 核酸・遺伝子医薬フォーカスグループ）（2018 年 5 月 30 日 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ）
- ・日本核酸医薬学会誌「日本薬剤学会における微粒子製剤の物性測定標準化に向けた取り組み」 麓 伸太郎，西川元也。Vol. 22, No. 1 June 2018.

#### 【薬物相互作用・個別化医療 FG】

「薬物相互作用・個別化医療 FG」と FG の名称変更にともない，薬物動態（または薬効）の個体間変動を創薬や臨床においてどのように捉え，対処すべきかについて，物理薬理学から生物薬理学の専門家，そして基礎研究者から，医薬品開発や医療分野の専門家が集う薬剤学会の特色を十分に生かした活動を展開する意図のもと年会でのランドテーブルセッションおよび共催シンポジウムを開催した。

- ・日本薬剤学会第 33 年会ランドテーブルセッション 6「薬物相互作用・個別化医療 FG の今後を問うフォーカスグループへの期待と課題」（2018 年 6 月 1 日 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ）：参加約 150 名
- ・第 28 回日本医療薬学会年会 日本薬剤学会薬物相互作用 FG 共催シンポジウム「薬物動態における変動要因のエビデンスーエビデンスを作る・伝える・使う」（2018 年 11 月 25 日，神戸国際展示場）：参加者 200 名

#### 【医療 ZD と完全分業 FG】

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理の医療における ZD (Zero Defect) が達成されるよう 医薬分業の理念（医薬業の完全分離，処方鑑査の徹底，薬剤師 Ethics を高揚し薬剤師の質的向上）を基盤としたシステム・教育の構築を目指す討論を主に E-mail 討論により進めてきた。主たる実績として，800 年前に完成の国際標準分業（完全分業）への回帰をめぐる陳情（案）～人類の叡智の所産である真の分業を後世に伝えるため～を作成した。

#### 【DDS 製剤臨床応用 FG】

核酸・遺伝子医薬 FG と共同で年会にてラウンドテーブルを企画・実施した。また，脳内薬物デリバリーをメインテーマとし，合宿討論会ならびに日本薬学会にてシンポジウムを開催した。

- ・日本薬剤学会第 33 年会 ラウンドテーブル共催：核酸・遺伝子医薬 FG の項参照
- ・第 8 回 DDS 製剤臨床応用 FG 合宿討論会（2018 年 12 月 14-15 日 帝京大学箱根セミナーハウス（神奈川））：参加者 28 名
- ・日本薬学会第 139 年会 シンポジウム S40「脳内薬物デリバリー研究の潮流 ～薬物治療の実現を目指して～」（2019 年 3 月 22 日ホテルニューオータニ幕張（千葉））：参加者約 200 名

#### 【個別化製剤 FG】

- ・AMED「小児医薬品の実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」（代表者 中村秀文）の分担研究「小児用製剤開発のための産学コンソーシアムの構築と基盤技術の整備」（2016 年 8 月-2019 年 3 月）を完了し，報告書を提出した。
- ・企業研究者のための「臨床製剤現場研修」  
長崎大学病院薬剤部（2019 年 2 月 4-6 日，12-14 日，各 3 日間）：参加者 12 名  
草津総合病院薬剤部（2019 年 2 月 18-20 日，3 日間）：参加者 2 名
- ・第 3 回個別化製剤 FG 研究会（2019 年 3 月 1 日，タワーホール船堀（東京））：40 名参加

#### 【物性 FG】

以下の行事を開催し，また物性 FG 専用 HP も活用して情報発信，アンケート調査を行った。

URL: <http://bussei-FG.com/>

- ・物性フォーカスグループセミナー2018 「基礎から最前線まで！X線を用いた原薬・製剤の評価」（2019 年 2 月 15 日 星薬科大学）：参加者 107 名
- ・第 15 回 製剤技術伝承実習講習会 共催 2018 年 8 月 30-31 日 星薬科大学：製剤技術伝承講習会事業の項参照
- ・「固体医薬品の物性評価 第 2 版」（監修：日本薬剤学会 物性 FG）（2018.8）を発刊した。

- **【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】**  
アンケート調査を基にした QbD 実践に関する成果物の作成に取り組むために委員会を開催するとともに、QbD 普及のための実習講習会を開催した。その他、2015 年に実施したアンケート調査結果を 3 回に分けて会誌に投稿した。
  - ・委員会開催 5/11・7/13・9/14・11/8・1/15・3/5
  - ・第 2 回 QbD 実習講習会「～あなたはリスクアセスメントに基づいた管理戦略を構築していますか～」(2019 年 3 月 6 日 星薬科大学)：参加者 26 名
  - ・アンケート調査結果：薬剤学, 78(4), 197-204(2018), 薬剤学, 78(5), 237-242(2018), 薬剤学, 78(6), 298-307(2018)

- **【臨床製剤 FG】**  
日本薬学会でのシンポジウムを企画・立案し、他学会会員と討論・意見交換を行った。
  - ・日本薬学会 第 139 年会 シンポジウム S47「臨床製剤と薬学教育をめぐる現状と課題」(2019 年 3 月 23 日 幕張メッセ (千葉))：参加者約 120 名

- **【前臨床開発 FG】**  
前臨床開発に関わる諸問題、例えば原薬形態の効率的な決定法、加速試験が困難な製剤の判断法、安全性試験の製剤設計などをテーマとして、学術内容にタイムラインやリスクマネジメントのビジネス視点を含めた議論を行い、書籍として情報発信した。また、AI の前臨床研究に注目して下記の通りセミナーを開催した。
  - ・前臨床 FG セミナー2019「AI と前臨床研究とダイバーシティ」講演&討論会 (2019 年 2 月 18 日 立命館大学)：参加者 51 名。
  - ・フォーカスグループ (FG) の活動をベースとした書籍として「前臨床/臨床医薬品開発の展望と戦略」(監修：日本薬剤学会 前臨床開発 FG/経口吸収 FG) を発刊した (2018.6)。

- **【超分子 FG】**  
複数の分子が共有結合以外の結合により秩序だって集合した分子である超分子に注目して、「超分子化学」と「薬剤学」を融合した新規学問である「超分子薬剤学」を立ち上げ、次世代の薬剤学を創製することを目的として活動を開始した。本年度は第 1 回目のシンポジウムを開催し、超分子薬剤学に関する最新の研究について議論を行った。
  - ・第 1 回超分子薬剤学 FG シンポジウム (2018 年 9 月 12 日 熊本大学)：参加者 64 名

## 2 製剤設計における種差の問題検討会 (略称：製剤種差検討会) 事業

2016 年度より開始された製剤種差検討会は登録団体数が 2019 年 3 月末時点で 54 に達し、学会内外での認知度も高まっている。2018 年度は世話人会組織体制の変更、それに伴う規約・内規の見直しを行った。また、2 回の事例報告会 (オブザーバーとして国立衛研, PMDA, 東大医学部女性外科も参加) を開催した他、本検討会の大きな財産になりつつある質問箱の整理 (約 130 件の質問&コメント)、種々の広報活動を実施した。

### 【事例報告会】

- ・第 6 回事例報告会 (2018 年 7 月 5 日, キャンパスプラザ京都)：参加者 79 名
- ・第 7 回事例報告会 (2018 年 11 月 30 日, 城西大学東京紀尾井町キャンパス)：参加者 68 名

### 【学会誌投稿】

- ・薬剤学, 78(4), 188-190 (2018) に第 5 回事例報告会レポート (&グラビア) 掲載
- ・薬剤学, 78(6), 295-297 (2018) に第 6 回事例報告会レポート (&グラビア) 掲載

### 【学会・講演会活動】

- ・日本 DDS 学会年会 (2018/6/21-22 ; 長崎) シンポジウムで活動を紹介

## 制度改革担当理事

### 1 制度改革担当事業 (制度改革委員会)

- 公益社団法人として、2018 年度からの主体的運用を目指して持続性のある制度に整備する。
- 1.1 本学会の代議員制度を 2018 年度からの導入し運営を開始するとともに、主体的な学会事務運営を行うために諸制度や専任人材の採用を行い、事務機能を強化した。

## 年会長

### 1 年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った。会員の口頭またはポスターによる研究発表の他、下記の各種講演・シンポジウム、ラウンドテーブルセッション、ランチョンセミナー、企業展示会等の多種多様なプログラムを設けたほか、若手の連携を意図した交流会を行った。

#### 1.1 第33年会の開催

メインテーマ「患者ベネフィットに貢献するサステナブル（sustainable）薬剤学」

特別講演：2 演題，招待講演：2 演題

各種受賞者講演

学術シンポジウム：5 セッション

特別企画シンポジウム，薬学教育シンポジウム，医薬品包装シンポジウム，SNPEE2018，各 1 セッション

ラウンドテーブルセッション：6 セッション

参加者数：1,100 名，2018 年 5 月 30 日-6 月 1 日

静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ

#### 1.2 第34年会組織委員会の開催：2018年3月27日，6月1日，2019年3月21日

## 学会運営

### 1 理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく，以下のとおり理事会を開催した。

第1回理事会	2018年4月24日
臨時理事会	2018年5月15日
第2回理事会	2018年5月29日
第3回理事会	2018年5月30日
第4回理事会	2018年9月25日
第5回理事会	2019年1月24日

### 1 総会

正会員から選挙で選ばれた代議員で構成される学会の最高の決議機関である総会を以下のとおり開催した。

1.1 定時総会	2018年5月30日 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ
----------	------------------------------------

以上

なお，2018年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

## (参考)事業別収支(損益ベース)一覧

2018年4月1日から2019年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

事業名	経常収益	経常費用	当期経常増減額	備考
公益目的事業				
APSTJ2025 推進事業	—	—	—	
国際標準医薬分業事業	—	—	—	
学会賞等表彰事業	300,000	1,791,398	△1,491,398	
創剤開発・研究賞表彰事業	1,049,000	1,049,000	—	
広報委員会事業	—	15,960	△15,960	
医薬品の包装と情報分科会事業	—	168,394	△168,394	
教育分科会事業	—	—	—	
学生シンポジウム事業	—	42,445	△42,445	
国際学会等協力事業	—	2,345,926	△2,345,926	
英語セミナー事業	85,000	493,752	△408,752	
機関紙出版事業	869,694	10,576,156	△9,706,462	*公益事業基金
「薬剤学」編集委員会事業	—	283,521	△283,521	
投稿論文審査委員会事業	—	—	—	
出版委員会事業	12,030	—	12,030	
製剤技術伝承委員会事業	7,230,000	5,364,455	1,865,545	
製剤技師認定事業	1,920,000	666,712	1,253,288	
製剤・創剤セミナー事業	7,472,652	6,259,951	1,212,701	
FG 統括委員会事業	4,005,000	3,668,959	336,041	
公開市民講演会事業	—	193,881	△193,881	
製剤種差検討会事業	592,102	542,287	49,815	
制度改革事業	—	240,923	△240,923	
年会事業	37,255,460	32,856,567	4,398,893	
共通	12,373,386	18,407,257	△6,033,871	*公益事業基金
小計	73,164,504	84,967,724	△11,803,220	
法人会計	12,101,313	11,431,443	669,870	
合計	85,265,817	96,399,167	△11,133,350	

\* 公益事業基金(9,869,494 円)を充当する。



# 貸借対照表

2019年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	23,805,400	30,696,021	△ 6,890,621
未収金	113,359	255,840	△ 142,481
前払費用	1,968,987	1,319,424	649,563
仮払金	2,000,000	0	2,000,000
流動資産合計	27,887,746	32,271,285	△ 4,383,539
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ記念基金	35,000,000	35,000,000	0
創剤開発・研究賞積立金	1,237,682	786,862	450,820
学術集会基金	7,900,000	7,900,000	0
公益事業基金	0	9,869,494	△ 9,869,494
特定資産合計	44,137,682	53,556,356	△ 9,418,674
(3) その他固定資産			
什器備品	196,470	0	196,470
ソフトウェア	521,305	654,405	△ 133,100
敷金	271,000	100,000	171,000
その他固定資産合計	988,775	754,405	234,370
固定資産合計	65,126,457	74,310,761	△ 9,184,304
資産合計	93,014,203	106,582,046	△ 13,567,843
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	2,118,801	4,553,281	△ 2,434,480
前受会費	18,363,000	18,845,000	△ 482,000
預り金	137,899	106,732	31,167
仮受金	40,000	40,000	0
未払消費税等	600,000	600,000	0
流動負債合計	21,259,700	24,145,013	△ 2,885,313
負債合計	21,259,700	24,145,013	△ 2,885,313
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	21,237,682	20,786,862	450,820
指定正味財産合計	21,237,682	20,786,862	450,820
(うち基本財産への充当額)	(20,000,000)	(20,000,000)	0
(うち特定財産への充当額)	(1,237,682)	(786,862)	450,820
2. 一般正味財産	50,516,821	61,650,171	△ 11,133,350
(うち特定財産への充当額)	(42,900,000)	(52,769,494)	△ 9,869,494
正味財産合計	71,754,503	82,437,033	△ 10,682,530
負債及び正味財産合計	93,014,203	106,582,046	△ 13,567,843

# 正味財産増減計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	93,742	94,773	△ 1,031
基本財産受取利息	93,742	94,773	△ 1,031
特定資産運用益	140,613	142,158	△ 1,545
特定資産受取利息	140,613	142,158	△ 1,545
受取会費	23,791,000	24,384,000	△ 593,000
正会員受取会費	12,731,000	13,094,000	△ 363,000
学生会員受取会費	1,860,000	2,010,000	△ 150,000
賛助会員受取会費	9,200,000	9,280,000	△ 80,000
事業収益	61,028,204	70,265,702	△ 9,237,498
学術集会・委員会等事業収益	56,741,027	66,171,136	△ 9,430,109
参加費	27,255,627	35,115,000	△ 7,859,373
意見交換会費	4,605,000	0	4,605,000
助成金・補助金	1,503,000	3,175,000	△ 1,672,000
寄付金・協賛金	2,408,000	6,548,000	△ 4,140,000
セミナー協賛金	5,010,000	3,888,000	1,122,000
広告料	972,000	1,674,000	△ 702,000
出展料	14,987,400	15,771,136	△ 783,736
学会誌等出版事業収益	1,017,997	751,320	266,677
購読料	540,043	412,906	127,137
投稿料・別刷料	247,557	192,491	55,066
許諾料・使用料	142,269	145,923	△ 3,654
広告料	88,128	0	88,128
学会賞等表彰事業	1,349,180	1,213,138	136,042
助成金・補助金	300,000	500,000	△ 200,000
指定正味財産からの振替	1,049,180	713,138	336,042
製剤技師認定事業	1,920,000	2,130,108	△ 210,108
受験料	1,300,000	1,510,108	△ 210,108
認定料	620,000	620,000	0
雑収益	212,258	895,374	△ 683,116
受取利息	156	166	△ 10
雑収益	212,102	895,208	△ 683,106
経常収益計	85,265,817	95,782,007	△ 10,516,190
(2) 経常費用			
事業費	84,967,724	73,295,926	11,671,798
給料手当	9,080,747	2,111,180	6,969,567
臨時雇賃金	2,010,252	2,156,720	△ 146,468
法定福利費	296,535	0	296,535
会場費	13,470,727	18,708,528	△ 5,237,801
旅費交通費	7,749,575	3,782,442	3,967,133
会議費	2,560,447	2,639,531	△ 79,084
意見交換会費	8,363,159	9,612,865	△ 1,249,706
賞状・賞牌・副賞費	2,578,332	4,130,517	△ 1,552,185
通信運搬費	1,149,232	654,909	494,323
ウェブサイト管	2,737,284	2,879,670	△ 142,386
消耗品費	3,558,378	177,101	3,381,277
印刷製本費	12,853,798	6,752,799	6,100,999
賃借料	2,079,270	1,088,019	991,251
保管料	213,840	486,000	△ 272,160
諸謝金	5,503,357	4,971,192	532,165
支払負担金	1,802,079	1,187,744	614,335
業務委託費	8,087,544	9,442,025	△ 1,354,481
税理士報酬	406,364	1,618,133	△ 1,211,769
雑費	466,804	896,551	△ 429,747
管理費	11,431,443	14,037,219	△ 2,605,776
給料手当	2,382,921	2,111,179	271,742
法定福利費	77,815	0	77,815
旅費交通費	1,393,071	2,394,163	△ 1,001,092
会議費	906,680	969,642	△ 62,962
通信運搬費	747,867	1,004,972	△ 257,105
ウェブサイト管	581,118	0	581,118
減価償却費	191,510	13,194	178,316
消耗品費	459,227	466,296	△ 7,069
印刷製本費	312,954	284,470	28,484
光熱水費	30,780	0	30,780
賃借料	485,067	473,769	11,298
租税公課	1,386,160	564,600	821,560
業務委託費	489,388	2,818,691	△ 2,329,303
税理士報酬	106,636	1,618,133	△ 1,511,497
公認会計士報酬	1,296,000	810,000	486,000
雑費	584,249	508,110	76,139
経常費用計	96,399,167	87,333,145	9,066,022
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 11,133,350	8,448,862	△ 19,582,212
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 11,133,350	8,448,862	△ 19,582,212
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 11,133,350	8,448,862	△ 19,582,212
一般正味財産期首残高	61,650,171	53,201,309	8,448,862
一般正味財産期末残高	50,516,821	61,650,171	△ 11,133,350
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,500,000	1,500,000	0
一般正味財産への振替額	△ 1,049,180	△ 713,138	△ 336,042
創刊開発・研究賞基金	△ 1,049,180	△ 713,138	△ 336,042
当期指定正味財産増減額	450,820	786,862	△ 336,042
指定正味財産期首残高	20,786,862	20,000,000	786,862
指定正味財産期末残高	21,237,682	20,786,862	450,820
III 正味財産期末残高	71,754,503	82,437,033	△ 10,682,530

財産目録  
2019年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
	現金預金			<u>23,805,400</u>
	現金	現金	事務局手許現金	79,528
	預金	普通預金		6,279,975
		三菱UFJ/江戸川橋	運転資金として	5,031,309
		三菱UFJ/江戸川橋(セミナー)	同上	0
		三住信/本店	同上	1,206,986
		みずほ/根津	同上	41,680
		郵便/会費	同上	15,591,049
		郵便/講習会	同上	1,854,848
		郵便/製剤セミナー	同上	0
	未収金	パナー広告掲載未収額他	公益目的事業及び法人会計への未収額	113,359
	前払費用	加盟団体年会費	公益目的事業の前払分	1,968,987
	仮払金		公益目的事業(年会事業)の仮払分	2,000,000
<b>流動資産合計</b>				<b>27,887,746</b>
<b>(固定資産)</b>				
<b>基本財産</b>				
	定期預金		公益目的事業に必要なその他の活動の用に供する財産であり、運用益を管理費に使用	<u>20,000,000</u>
		(定期)三住信/本店		20,000,000
<b>特定資産</b>				
	タケルアヤヒグチ記念基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(ヒグチ記念各賞表彰事業)に使用	<u>44,137,682</u>
		(定期)三住信/本店		30,000,000
	創剤開発・研究賞積立金	郵便/会費	同上	5,000,000
		(普通)三住信/本店	公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)に使用	1,237,682
	学術集会基金	郵便/会費	同上	7,900,000
			公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(年会事業)に使用	7,900,000
<b>その他固定資産</b>				
	什器備品	パソコン	法人の管理運営に供している資産	<u>988,775</u>
	ソフトウェア	公益法人会計ソフト	法人の管理運営に供している資産	196,470
	敷金	事務所借室学会センタービル	法人の管理運営に供している資産	521,305
				271,000
<b>固定資産合計</b>				<b>65,126,457</b>
<b>資産合計</b>				<b>93,014,203</b>
<b>(流動負債)</b>				
	未払金	学会誌編集費, 事務委託費等	公益目的事業及び法人運営の未払分	2,118,801
	前受会費	次年度以降会費	公益目的事業及び法人運営の前受分	18,363,000
	預り金	源泉所得税	公益目的事業及び法人運営の未払分	137,899
	仮受金	郵便/会費, 三菱UFJ/江戸川橋等	不明入金等の仮受分	40,000
	未払消費税等	未払消費税等	当年度納付額概算計上額	600,000
<b>流動負債合計</b>				<b>21,259,700</b>
<b>負債合計</b>				<b>21,259,700</b>
<b>正味財産</b>				<b>71,754,503</b>

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1)固定資産の減価償却  
固定資産の減価償却は定額法によっている。
- (2)消費税等の会計処理  
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
タケアヤヒグチ記念基金	35,000,000	0	0	35,000,000
創剤開発・研究賞積立金	786,862	1,500,000	1,049,180	1,237,682
学術集会基金	7,900,000	0	0	7,900,000
公益事業基金	9,869,494		9,869,494	0
小計	53,556,356	1,500,000	10,918,674	44,137,682
合計	73,556,356	1,500,000	10,918,674	64,137,682

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
小計	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
タケアヤヒグチ記念基金	35,000,000	(0)	(35,000,000)	(0)
創剤開発・研究賞積立金	1,237,682	(1,237,682)	(0)	(0)
学術集会基金	7,900,000	(0)	(7,900,000)	(0)
小計	(44,137,682)	(1,237,682)	(42,900,000)	(0)
合計	64,137,682	(21,237,682)	(42,900,000)	(0)

### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	254,880	58,410	196,470
ソフトウェア	665,496	144,191	521,305
合計	920,376	202,601	717,775

### 5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
2018年度Award Grant 助成金	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	300,000	300,000	0	注)
助成金(年会)	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	400,000	400,000	0	注)
スカラシップ・七つ星助成金(年会)	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注)
助成金(年会)	公益財団法人するが企画観光局	0	200,000	200,000	0	注)
助成金(年会)	静岡市	0	753,000	753,000	0	注)
合計		0	1,803,000	1,803,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

### 6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
事業収益	
学会賞等表彰事業	
創剤開発・研究賞積立金	1,049,180
合計	1,049,180

## 附属明細書

### 1. 基本財産および特定資産の明細

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているため、内容の記載を省略している。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

# 報告書

2019年4月24日

公益社団法人日本薬剤学会  
会長 竹内洋文 殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士

馬目 和昭



## 1. 監査の方法と概要

私は、公益社団法人日本薬剤学会の2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表等、すなわち、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録についての監査を行いました。

監査に当たって、私は、試査を基礎とし、通帳、請求書、領収書等の関係証憑と会計帳簿間の照合、及び財務諸表等が会計帳簿に基づき適正に作成されているか検討を行いました。

## 2. 監査意見

監査の結果、私は、上記の財務諸表等が、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、公益社団法人日本薬剤学会の2018年度末日現在の財政状態及び同事業年度の正味財産増減を重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上




# 監査報告書

公益社団法人 日本薬剤学会  
会長 竹内 洋文 殿

2019年4月26日

公益社団法人 日本薬剤学会

監事 山下 伸之 

監事 原島 秀吉 

私たちは、2018年4月1日から2019年3月31日までの2018年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

## 1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

## 2 監査意見

- (1) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、財務諸表に対する注記及び附属明細書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書及び附則明細書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上